

3 俳句の読み方、味わい方／俳句五句

● 単元の確認

■ 作者・作品の確認

作者	出身地	作品など
中村汀女 (一九〇〇～ 一九八八)	熊本県	俳誌「風花」を主宰。 句集「春雪」「花影」など
星野立子 (一九〇三～ 一九八四)	東京都	高浜虚子の次女。女性初の俳誌「玉藻」を創刊。 句集「立子句集」など
飯田蛇笏 (一八八五～ 一九六二)	山梨県	俳誌「ホトトギス」の中心作家。俳誌「雲母」を主宰。 句集「山廬集」「椿花集」など
高浜虚子 (一八七四～ 一九五九)	愛媛県	俳誌「ホトトギス」を主宰。定型や季語など俳句の伝統を重んじる。 句集「虚子句集」「五百句」など
中村草田男 (一九〇一～ 一九八三)	中国 厦門	高浜虚子の守旧派を継承、人間探求派とよばれる。 句集「長子」「銀河依然」など
正岡子規 (一八六七～ 一九〇二)	愛媛県	俳句や短歌の革新に努め、対象をありのままに写す手法「写生」を提唱。 句集「寒山落木」、俳句論に「俳諧大要」など
水原秋櫻子 (一八九二～ 一九八二)	東京都	俳誌「馬酔木」を主宰。新興俳句運動を推進。 句集「葛飾」「霜林」など
種田山頭火 (一八八二～ 一九四〇)	山口県	放浪の旅を続け、自由律俳句を数多く残した。 句集「草木塔」「山行水行」など

学習のポイント

- 俳句の形式や表現技法を理解する。
- 俳句の表現の工夫に注意して、情景や心情を捉える。

■ 作者・作品の確認問題

1 次の人物名を漢字で書きなさい。

① 俳句と短歌の革新運動を展開した人物で、「写生」という手法を提唱した。

② 放浪の旅を続けた人物で、旅の中で多くの自由律俳句を残した。

③ 高浜虚子の伝統的な俳句を受け継いだ人物で、句集に「長子」「銀河依然」などがある。

2 次の俳誌を主宰した人物を漢字で書きなさい。

① 「ホトトギス」

② 「馬酔木」

③ 「風花」

④ 「雲母」

⑤ 「玉藻」

中3HW 4/2(土) → 4/9(土)提出 (氏名)

知識の確認

1 俳句の形式

(1) 定型…五・七・五の十七音の形式で表現する。

五・七・五のまとまりを、それぞれ「上五」「中七」「下五」と呼ぶ。

上五 (初句・上の句)	中七 (第二句・中の句)	下五 (結句・下の句)
五音	七音	五音
たんばばや	日はいつまでも	大空に
		中村汀女

破調

(2) 自由律…五・七・五の定型にならない俳句を「自由律俳句」という。

例分け入つても分け入つても青い山 種田山頭火

2 季語と歳時記

(1) 季語…季節を表す言葉で、原則として俳句一句に一つ詠み込む。

季題

(2) 歳時記…季節ごとに季語を分類した本。時候、天文・地理、生活・行事、動物、植物などの項目に分けられている。

【季語の例】

季節	季語の例
春 (旧暦一月〜三月)	春風、雪解け、囀、桜、たんばば
夏 (旧暦四月〜六月)	梅雨、夕立、万緑、麦秋 (麦の実る時期)
秋 (旧暦七月〜九月)	名月、赤蜻蛉、すすき、七夕、天の川
冬 (旧暦十月〜十二月)	霜、風雪、大根、木枯らし、冬菊

※季語の季節は、旧暦によっているので、現在の季節感と異なる場合もある。

3 切れ (句切れ)・切れ字

(1) 切れ…一句の中で言葉や意味の切れ目に当たるところ。句切れ。

切れ	句切れ	例
上五の切れ	初句切れ	春風や／鬨志いだきて丘に立つ 高浜虚子
中七の切れ	二句切れ	柿食へば鐘が鳴るなり／法隆寺 正岡子規
中七の中間切れ	中間切れ	万緑の中や／吾子の齒生え初むる 中村草田男
下五の切れ		をりとりてはらりとおもきすすきかな 飯田蛇笏

※途中で意味の切れ目がないものを「句切れなし」ということがある。

(2) 切れ字…俳句の意味の切れ目に使われ、余情や感動を表す言葉。切れ字表現

【切れ字の例】 や・かな・けり・よ など かな・けり・や・はり・よ

例 万緑の中や／吾子の齒生え初むる 中村草田男

例 赤蜻蛉筑波に雲もなかりけり 正岡子規

例 をりとりてはらりとおもきすすきかな 飯田蛇笏

4

表現技法

繁殖期の鳥の鳴き声

参考4ページ 知識の確認

擬人法

例 囀をこぼさじと抱く大樹かな 星野立子

体言止め

例 分け入つても分け入つても青い山 種田山頭火

取り合わせ

例 たんばばや日はいつまでも大空に 中村汀女

※季語とともに、一見無関係に思える事柄を詠み込む方法。句に奥行きや広がり生まれ、豊かな表現が可能になる。

↓春の季語「たんばば」と「日はいつまでも大空に」の取り合わせ。地上の「たんばば」から、大空の「日(太陽)」へと大きな空間が描かれ、明るい光景と春の日の充足感が表現されている。

句点(・)が打てず

知識の確認問題

1 俳句の形式 俳句について説明した次の文の□に当てはまる言葉を書きなさい。

俳句は

□

・

□

・

□

の三句 □ 音の形式で表現する定

型詩で、初句を上五、第二句を□、結句を下五と呼ぶ。

俳句には、季節を表す

□

を一句に一つ入れるという原則があり、

これらの語を詠み込んだ定型の俳句を

□

定型、これらの語がな

く、定型によらない俳句を

□

と呼ぶ。また、

これらの語を季節ごとに分類してまとめた書物を

□

また

は季寄せという。

2 季語 次の季語は、春・夏・秋・冬のどの季節の季語ですか。それぞれ漢

字一字で答えなさい。

① 霜

□

② 春風

□

③ 天の川

□

④ 冬菊

□

⑤ 赤蜻蛉

□

⑥ 万緑

□

⑦ 夕立

□

⑧ 大根

□

⑨ 囀

□

3 季語と季節 次の俳句から季語を抜き出しなさい。また、その季節を漢字一字で書きなさい。

① をりとりてはらりとおもきすすきかな

季語 □

飯田蛇笏

② いなびかり北よりすれば北を見る

季語 □

橋本多佳子

③ たんばばや日はいつまでも大空に

季語 □

中村汀女

4 切れ 次の俳句の切れはどこですか。「……切れ」という形で答えなさい。なお、①は切れが二か所考えられます。順に二つ書きなさい。

① 赤蜻蛉筑波に雲もなかりけり

□

正岡子規

② 万緑の中や吾子の菌生え初むる

□

中村草田男

③ ゆさゆさと大枝ゆるる桜かな

□

村上鬼城

5 切れ字 次の俳句から、切れ字を抜き出しなさい。

① 春風や鬪志いだきて丘に立つ 高浜虚子

② 罇をこぼさじと抱く大樹かな 星野立子

③ 赤蜻蛉筑波に雲もなかりけり 正岡子規

④ 硝子の魚おどろきぬけさの秋 与謝蕪村

6 表現技法 次の俳句に用いられている表現技法を、後から選んで書きなさい。

① たんぼぼや日はいつまでも大空に 中村汀女

② 分け入つても分け入つても青い山 種田山頭火

体言止め 擬人法
取り合わせ 倒置

◆ 漢字・語句の確認 ◆

教科書 p. 18、22

◆ 漢字の読み書き — 線の漢字に読み仮名を書き、片仮名は漢字に直しなさい。

① 期待が膨らむ。 ② 春らしい雰囲気。

③ 繁殖期を迎える。 ④ 擬人法を使った句。

⑤ 薄の穂が風になびく。 ⑥ 僅か十七音の俳句。

⑦ 美しい万緑の風景。 ⑧ 注意をハラう。

⑨ キンチョウを高める。 ⑩ 太陽のカガヤキ。

⑪ 軽やかなカンシヨク。 ⑫ ヨインを持たせる。

◆ 語句の意味 次の語句の意味を、に言葉を当てはめて完成させなさい。

・季語

を表す言葉。

◆ 類義語・対義語 次の語句の類義語(〓)・対義語(↕)をそれぞれ書きなさい。

① 充足 〓 ② 感触 〓

③ 日永 ↕